



CONTENTS

「LIVING TOGETHERのネクストステップ」.....	01
HIV陽性者を対象とした2つの大規模調査の合同報告会 開催！.....	02
QOGL—Quality of Gay Life—を動画で公開！.....	04
パンフレット「身近な人から薬物使用について相談されたら」.....	04
ネスト・プログラム.....	05
「HIV陽性者参加支援スカラップ」報告会.....	09
部門報告（2015年1～3月）.....	09
ぷれいす東京 2014年度活動報告会のご案内、 連続学習会「ぷれいすトーク」がスタート！.....	12

「LIVING TOGETHER のネクストステップ」

ぷれいす東京代表 生島 嗣

ぷれいす東京設立21年目の活動を始めるにあたり、2つの新たなプロジェクトを企画しています。これまで同様、HIV感染が判明した後に相談サービスを必要としている人、同じ立場同士で交流したいという要望を大切にしつつ、さらに、より広く HIV に関心を持つ人たちと接点を作り出していく予定です。

新プロジェクトの一つは、連続学習会の開催です。昨年の活動報告会で好評だったトークコーナーを発展させ、テーマごとに講師を招いてトーク&交流をセットにしたイベントを定期開催する予定です。HIV/エイズについて情報を増やし、話せる場を作り出します。これまで関心はあったけれども場所がなかった人たちも、気楽に参加できる場を目指します。一般市民、HIV陽性者や周囲の人たち、地域で介護、福祉、医療などのサービス提供を行う支援者に役立つ内容を企画します。ぷれいす東京スタッフ、賛助会員、寄付者、ネスト・プログラム利用者など、既につながっている皆様の参加も歓迎します。

初回は6月に開催。前代表の池上による「家庭のなかの性教育」です。その後インターン大学生とスタッフによる「若者と HIV」、ぷれいす東京や関連機関による研究成果とその解釈、「HIVと就労」、「セクシュアリティと法律」、「HIVと薬物使用」、「HIVと貧困」、「HIVとセックスワーク」、「外国人と HIV」、「女性と HIV」などを取り上げていきたいと考えています。リクエストがあれば、お知らせください。

連続学習会には、HIV陽性者を含めたスタッフたちとの交流を中心に据えた企画も考えています。HIV陽性者と一緒に働くことになった、身近な人が陽性だった、医療や介護関係でサービスの利用者が HIV陽性者だった場面などの事前準備として、多様なスタッフ達との交流を通して、自分の内面にある HIV/エイズのイメージをアップデートしてもらうのに役立つことと思います。

2つ目のプロジェクトは、この20周年記念事業のしめくくりとして、ぷれいす東京の Web サイトの大規模なリニューアルを進行中です。これまでいくつかのサイトに

分かれていましたが、今回は、一般向けサイトと陽性者向けサイトを合体しています。1998年に団体の Web サイトがオープンし、翌年には、HIV陽性者とパートナー・家族向けのサイトとして、NEST W3（現「web NEST」）が開設されました。スタート時には、サイトの入り口には、「HIV/エイズへの肯定的な関心があるか？」という質問を設置し、YES と答えないと中に入れないようになっていました。その後、2005年のリニューアルの際に、このゲートを撤去し、より開かれたサイトに変化しました。

NEST W3/web NEST は、HIV陽性のスタッフが献身的に関わり運営してきました。この Web サイトには、当事者が情報発信することで、ぷれいす東京に来ることが難しい仲間たちとつながり、経験を共有できるメリットがあります。その一方で、匿名のネット社会で、偏見に基づく批判や差別に巻き込まれるのではという不安もありました。しかし、それを乗り越え、質問集への回答を寄せてくれた人、日記を書き続けてくれた人、ネットワークでつながってくれたブロガーさんたちなど、リアルな HIV とともに生きる人たちの声にあふれていました。

こうした声を求めていたのは、HIV陽性の告知を受けた直後の HIV陽性者やそのパートナー・家族はもちろんですが、それ以外にも、HIV に関するそれぞれのリアリティに向き合おうとする人たちがいました。それは、HIV感染不安におびえる人たちであったり、支援者だったりもしました。HIV検査を受ける人にも、周囲で感染の事実を知られる人たちにも、それぞれの向き合い方があり、それらは連続しているものだということがわかってきました。そこで、今回のリニューアルでは、ぷれいす東京と web NEST を合体し、より広く、連続したかたちでの情報発信をしていくことになりました。

今後は、学習会の場、Web サイトを通して、よりリアルに HIV とともに暮らす人たちの声、HIV検査に向き合おうとする人たちの声、支援者の声など、皆様と共有していきたいと考えています。

HIV陽性者を対象とした2つの大規模調査の合同報告会 開催！

「Futures Japan ～HIV陽性者のためのウェブ調査～」

「第3回 HIV陽性者の健康と生活に関する実態調査」

～HIV陽性者の健康・就労・スティグマ・セックス・薬物使用の現状と課題を考える～

3月15日に東京・新宿区(初台区民センター)にて開催された合同報告会では、膨大な調査結果の中からテーマを絞りつつも3時間に及ぶ報告が行われ、質疑も盛んに行われました。

両方の調査に関わっている大木幸子さんによる、今回の合同報告会のレポートをお届けします。

「合同報告会に参加しながら思ったこと」

大木幸子(杏林大学保健学部)

3月15日、2つのHIV陽性者の生活に関する大規模調査の合同報告会が行われました。2つというのは、若林チヒロさんたちの「第3回 HIV陽性者の健康と生活に関する実態調査」(以下若林調査)と、もうひとつは、井上洋士さんたちの「Futures Japan HIV陽性者のためのウェブ調査」(以下Futures調査)です。3時間半、ひたすらパワーポイントに示されるグラフと数値を見ながら、そこに立ち現われる当事者の暮らしの様を考える作業は、とても興味深いものでした。とはいえ終盤は、集中力が切れがちなのを自ら叱咤激励し、腰や首が固まるのをほぐしながらではありましたが…。

この2つの大規模調査の膨大な報告について、まとめて何かを書くというのは、とっても無謀な挑戦なので、それはそれぞれの報告論文や学会での報告とディスカッションにお任せすることとして、ここでは報告を聞きながら、2つの調査にわずかながら関わってきた私の心や頭をめぐったテーマについて触れたいと思います。

まずは、2つの調査が、誰の暮らしを照射しているのかという点です。すなわち、HIV陽性者の方々にご協力いただく調査が、異なるアプローチからであっても複数行われることの意義についてです。将来的には、調査協力負担等を考えると、国内での大規模調査としては、1つのプロジェクトとなることも望まれるのかもしれませんが。しかし今回の報告では、それぞれの調査の特徴があり、明らかにしているHIV陽性者の姿が異なっている部分があることが印象的でした。また同時に共通した結果が見られた内容については、より実態を克明に示しているものと考えられました。これらの点に少し触れたいと思います。



「第3回 HIV陽性者の健康と生活に関する実態調査」の報告をする若林氏

プログラム

演者：

○若林チヒロ(埼玉県立大学)

「第3回 HIV陽性者の健康と生活に関する実態調査」

(厚生労働科学研究費補助金「地域においてHIV陽性者等のメンタルヘルスを支援する研究」研究代表者：樽井正義)

○井上洋士(放送大学)

「Futures Japan ～HIV陽性者のためのウェブ調査～」

(「HIV Futures Japan プロジェクト」代表：井上洋士)

コメンテーター：生島 嗣(ぶれいす東京)

司会：高久陽介(日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラス)

主催：HIV Futures Japanプロジェクト

協力：平成24～26年度厚生労働科学研究費補助金(エイズ対策研究事業)「地域においてHIV陽性者等のメンタルヘルスを支援する研究班」

それぞれの調査の特徴ですが、1点目はFutures調査が当事者参加型である点です。これは調査デザインや結果の分析にも大きな影響をもつものですが、調査結果の活用という点で当事者サイドからの多様な活用が期待されます。

2点目は、調査方法です。若林調査は、ACC、ブロック拠点病院、中核拠点病院での医療者からの配票による調査です。一方でFutures調査は、インターネットによるWeb調査です。調査方法によって当然ながら回答者の層が異なってきます。若林調査ではACCやブロック拠点、中核拠点病院に通院している陽性者が前提となります。Futures調査では、回答者の通院先は、それらの中心的な拠点病院以外が3割を占め、さらに「通院なし」という回答が3.5%を占めていました。ただし、回答者はインターネット調査にアクセスできる人という限定があります。しかし同様の結果が示された項目が多くある一方で、異なる結果も示されています。このように2つの調査をあわせて見ていくと、重なる部分を持ちながらもそれぞれがウイングを伸ばし、より多様なHIV陽性者の状況を捉えているといえます。

3点目の特徴は、若林調査が今回で3回目になる点です。2003年以降5年ごとに行われてきたことで、共通の調査項目については経年的な変化をみることでできます。高齢化が急速に進んできた点や就労状況が必ずしも改善していない点など、この10年間のHIV陽性者をめぐる状況が示されることは、国内政策の評価として非常に貴重です。



「Futures Japan ～ HIV 陽性者のためのウェブ調査～」の報告をする井上氏

次に、これらの調査結果をどう公表していくのかということに触れたいと思います。今回行われた両調査とも、薬物使用を含めたメンタルヘルスに関する項目が盛り込まれています。非常に乱暴なまとめ方であることを承知でいうならば、メンタルヘルスの評価は一般市民の調査と比べると、必ずしも良好な結果ではありませんでした。また薬物使用の経験割合も看過できない結果が出ていましたが、とりわけ注目されるのは、セックスドラッグとしての薬物使用が示唆された点です。これは従来の薬物依存症の問題では語られていない状況です。こうした精神保健上の課題とHIV陽性であることとの関連については、横断調査で言及できることは限られています。しかし、セクシュアルマイノリティであること、HIV陽性であること、そして薬物使用者であること、これらはいずれもそれ単独でもスティグマを負った 이슈 です。そうしたスティグマを負いやすい 이슈 をどのように扱うかは、リサーチは当然ながら慎重になります。部分的に切り取られた調査結果が独り歩きし、調査対象集団へのスティグマを助長することを危惧するからです。しかし、社会的支援の充実の基礎資料となるよう HIV 陽性者の暮らしのリアリティに迫ろうとした2つの調査が、いずれもこれらの調査項目を盛り込んだということは、この問題を重要な健康問題として位置づけてのことです。

私自身は調査結果を聞きながら、次のことを改めて考えさせられました。それは、HIV感染という事象は、他者との関係性に基づく生活行動にかかわる事象であること、そして、他者との中で生きていく時の生きづらさの物語が、少なからず存在していることです。すなわち、HIV感染、精神保健、薬物使用いずれの問題も、当事者の努力やキャラクターに帰着させるべきではなく、ライフコースをとおした社会的な取り組みが求められるのだと思います。そして調査結果が安易なネガティブキャンペーンに使われないためにも、調査の積み重ねが必要なのだと思います。そして、結果の受け手が数値に隠れ見える意味を肉付けでき、多様な物語が存在していることを考えることができるためには、調査結果とは別にあるいは並行して、さまざまな当事者の声が発信されることが重要なだろうと思いました。

最初に触れたように Futures 調査は、当事者参加型の調査です。今回の第1回の調査結果について、学術的な公表とあわせて当事者による活用が検討されています。言うまでもなく、調査結果の公表と活用について当事者と研究者が、どれほど対等に検討していけるかは、このプロジェクトの真価を問われる点であると思います。また若林調査については、同じ研究班の中で当事者の語りを丁寧に調べた質的調査が行われ、総合的なディカッショ

ンが行われてきました。また質的調査と量的調査をあわせた媒体が作成される予定です。このような研究班全体としてのアプローチは、第2回調査での精神保健上の課題のキャッチが基盤になっています。

暮らしとは、そもそも多様な要素からなり、かつ混沌としているものです。しかしそうした混沌の中から、私達の社会がけっして見過ごしてはいけない課題を見出し、なんらかの解決に取り組もうとすることが、研究のもつ社会的な問いでしょう。そして問いを積み重ね、多様なアプローチを組み合わせながら、暮らしの実態に迫っていく真摯な姿勢がリサーチや調査にかかわる当事者、関係者に求められるのだと思います。そして、丁寧な調査の積み重ねをとおして、HIV陽性の人もそうでない人も一緒に同時代を暮らししていることに関心を寄せる人達が、時間を超え、学問領域を越えながら、広がっていくことを目指していければという、大それた心持になりながら帰りました。

まったくの余談ですが、翌日、私は腰痛のため鍼灸院に行くことになり、長時間無理な姿勢をとっていたためでしょうと言われました。身にも心にもハードで刺激的な半日でした。



司会の高久氏(右)とコメントターの生島

2つの調査結果は下記URLにて公開されております。

地域におけるHIV陽性者支援のためのウェブサイト
「地域においてHIV陽性者等のメンタルヘルスを支援する研究」

第3回「HIV陽性者の健康と生活に関する実態調査」
(A調査、B調査)報告書

<http://www.chiiki-shien.jp/resource.html>

Futures Japan ～HIV陽性者のためのウェブ調査～

・ Futures Japan 調査結果サマリー(概要)
<http://survey.futures-japan.jp/result/>

・ グラフで見る Futures Japan 調査結果
<http://survey.futures-japan.jp/result/booklet1.php>

QOGL —Quality of Gay Life—を動画で公開！

これまで4回開催してきたGフレのイベント「QOGL」は、vol.5から動画コンテンツとしてYouTubeで公開。いつでもご覧いただけるようになりました。

「イベントの難しさ、動画の難しさ」

sakura

「QOGL」は、健康とライフスタイルの折りあいを考えるというコンセプトに加えて、HIVを持っている人も持っていない人も一緒に学べる場にしたいと考え毎回のテーマとHIVとの関わりも意識したイベントとしてスタートしました。

実際にイベントとしてやってみて感じたことは、学びの場としての面白さは間違いなくある一方で、広報の難しさ、開催日の設定の難しさなどでした。自分自身の周囲から聞かれる声は、「面白そうだから行くね」ではなく「興味あるけどその日だと行けない……」みたいな声のほうが実際



今回は食事や運動など、体作りの基本がテーマ。

多かったのです。

そこで、今回からは動画のコンテンツにしよう、ということになったのですが、「撮り直しも編集もできますよ」という撮影者の方の言葉にも関わらず、イベント形式の時よりも緊張。ご出演くださった杏林大学の太木先生とがくさんに助けられて何とか撮り終えました。

そんな QOGL vol.5～ボディメイク編～「見た目重視でいいですか？」は、Gフレのブログやぶれいす日記からアクセスできます。お時間のあるときにご覧いただければ幸いです。



パンフレット「身近な人から薬物使用について相談されたら」

2013～4年にHIV陽性者を対象に行われた「HIV陽性者の健康と生活に関する実態調査」と、ゲイ・バイセクシュアル男性19名を対象に行われた個別の質問紙調査と半構造化面接「薬物使用者を対象にした聞き取り調査」の結果をもとに、身近な友だちや大切な人から薬物使用について相談を持ちかけられた人に役立つツールが作成されました。

薬物使用は精神的・身体的な健康課題であると同時に、「生きづらさ」のひとつのサインでもあります。そこで、身近な友だちや大切な人から薬物使用について相談を持ちかけられた場合、どうするかを考えるきっかけになるツールとしてこのパンフレットが作成されました。薬物を使用している人がどんな状況でいるのか、どのようなきっかけで使用をしているのか、その背景をご紹介しますので、ぜひご活用ください。

このパンフレットは、平成26年度 厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「地域において HIV陽性者等のメンタルヘルスを支援する研究」研究成果として作成されました。調査にご協力・ご参加いただいた皆様に感謝いたします。



パンフレットの表紙

「HIV陽性者の健康と生活に関する実態調査」

A調査…ブロック拠点病院とACC計9病院に通院するHIV陽性者1,786名を対象に無記名調査票を配布、1,100票回収(回収率61.6%)。2013年7月～12月実施。

B調査…中核拠点病院等22病院に通院するHIV陽性者687名を対象に無記名調査票を配布、369票回収(回収率53.7%)。2013年8月～2014年4月実施。

「薬物使用者を対象にした聞き取り調査」

C調査…薬物使用経験のあるHIV陽性者であり、ゲイ・バイセクシュアル男性/MSM19名を対象に、個別での質問紙調査および半構造化面接を2013年9月～11月に実施。

PDFをダウンロードしてご覧いただけます。

「地域におけるHIV陽性者等支援のためのウェブサイト」
<http://www.chiiki-shien.jp/>

ネスト・プログラム

さまざまなネスト・プログラムの中から、「弁護士と話そうⅢ」(1/30)、トークサロン「障害者枠で働く陽性者の交流会」(1/25)、「Women's Salon」(1/29)、「新年カップル交流会」(1/4)の参加者の感想文をお届けします。

シリーズ“専門家と話そう” 第14回「弁護士と話そうⅢ」

HIV をとりまくさまざまな専門家を招いてお話をしてもらったこのシリーズの第14回目となる「弁護士と話そうⅢ」が1月30日に行われました。ゲストは、永野靖さん(永野・山下法律事務所/LGBT支援法律家ネットワーク)と山下敏雅さん(永野・山下法律事務所/LGBT支援法律家ネットワーク)のお二人です。当日は、イメージしやすいように仮想Q&Aを設定してお話をさせていただきました。参加者30名のなかから4名の感想文をお届けします。



左から司会の生島、山下弁護士、永野弁護士

【仮想Q&A】

- Q1「現在、サラリーマンとして勤務しています。何度か入院をしたり、体調不良が続いています。職場から診断書の提出を求められた際、主治医に配慮ある記載をしてもらい、元の病名は伝えませんでした。勤務先以後でわかった場合、不利な立場になることはありますか？」
- Q2「最近感染がわかりました。過去の関係者のうち、可能性のある相手に感染を知らせました。その一人から「自分の感染がわかったら損害を請求するからな」と非常に拒否的な反応が返ってきました。知人の陽性者から、相手に受け入れられたという話を沢山聞いていたので、とても驚いています。相手の感染が判明したら、損害賠償を払う義務があるのですか？」
- Q3「パートナーとは、結婚も養子縁組もしていません。自分の具合がわるくなった時、病院での面会はどうなるのでしょうか。また、もしもの時のために、パートナーに何かを残すことが可能でしょうか？具体的な方法について教えてください。」
- Q4「いろんな借入れが重なって、どうにもならない状況になってしまいました。銀行系のカードなども借り尽くしてしまい、サラ金などにも、そろそろいかないと支払いが難しくなってしまうそうです。こういう事って、どこで相談にのってもらえますか？」
- Q5「友だちが薬物で逮捕されてしまいました。彼は今後、どのようにになってしまうのでしょうか。仕事は続けていけますか？」

「終活？ 困ったことになる前に」

しゅんあま(40代/服薬歴10年)

雪のふっている東京、久しぶりに上京し、「弁護士と話そうⅢ」に参加をすることができました。参加をする前は、特に何かに困っていて弁護士さんに相談したいとか、具体的な理由があったわけではなく、備えあれば憂いなし的に、何かのためになるかもしれないと思った程度だったというのがホンネでした。

しかし参加をさせていただけてほんとに良かった。というのも、自分がいま困っていないだけで、明日は我が身ともいえるいろんな問題があることを、具体例をあげて、分かりやすく説明して下さったからです。例えば、過去にSEXをした相手がHIVに感染をしていることがわかり訴えられてしまったらどうしようか、もしもドラッグを使ってしまい逮捕されたら等々、周囲でも時々話題にあがることを取り上げて下さっていました。

中でも、僕が一番印象に残りメモをとったのは、老後のことでした。もうすぐ、43歳にもなるのだし人生も折り返し地点?!ですから、そろそろ考えておくべきテーマなりました。現在では、HIVを持っても治療をきちんと続けていれば長く生きられる、ありがたい時代になっていますが、HIVを持ちながら老いを迎えるという問題もあります。いわゆる“おひとりさま”の僕にとっては、結婚の予定も今のところはなく、将来、自分の意志を自分で伝えることができなくなった時のために、公的な文書の残し方などを教えていただいたことは、これからも、いきいきと暮らしていくために必要な準備をするきっかけとなりそうです。

「様々な気付きや発見」

Yoshi

(40代/男性/ゲイ/感染告知2005年/投薬開始2007年)

「弁護士と話そう」には、初回より久方ぶりの2回目の参加になります。お二人の弁護士の先生方が、仮想Q&Aや様々な質問に次々とお答え頂き、2時間というプログラムも内容盛りだくさんであっという間の時間でした。今回のプログラムに参加させて頂き、特に印象に残ったことは3点ありました。

1つ目は法律の知識。実際の遺書のコピーを見せて頂いたり、成年後見制度などを教えて頂き、自分やパートナーを守る知識を得ることができました。

2つ目は他の陽性参加者の相談を聞くことができたこと。後半の1時間は、匿名形式で質問用紙に記入し、ポイントの解答を弁護士の先生方から頂きました。自分がその環境になっていない質問・解答を聞くことができ、新たな発見や気付きを得ました。

3つ目は弁護士との距離が近くなったこと。弁護士先生の最後のお言葉の中で「クリニックを使うように、気軽に弁護士に相談してください。」というお話がありました。今後自分も少し迷ったりした時には、弁護士の方も相談

先の選択肢として考えられるようになりました。非常に有意義な2時間を過ごすことができました。有難うございます。

「だいぶんスッキリしました。」 まる
(4年目/未服薬/初参加/男性ゲイ/アラフォー)

弁護士の方々は、裁判に至らない法的なもめ事にも味方になって対応してくれる存在であること、何が法的に問題になるか分からなくてもとりあえず相談すると何かとアドバイスがもらえそうなこと、相談や調停に必要な費用を支援してくれる仕組みがあることなど、色々勉強になりました。

それと、僕らのことを考えてくれている LGBT 支援法律家ネットワークという専門家グループが存在することを知ることができて、心強く思いました。考えてみれば、僕らの病気に関わるもめ事は、公開が原則である裁判で争われることはまずないわけですが、裁判実務に携わる方の話を聞いて確認できたのも良かったです。そうは言っても、こじれると相手の出方次第では絶対に裁判にならないとは言い切れないので、やっぱりセーファーは必須ですね。

「相談のタイミング」 匿名希望
(服薬歴7年/初参加/男/ゲイ/30代)

普段の生活の中で、弁護士の先生とお話する機会なんてめったにないので、どんなものかと思い参加してみました。何となく興味があって、と言う訳ではなく、誰にも言っていない(正確には「言えない」)お悩みがあるからです。

お悩みと言うのは、薬物に手を染めて現在服役中の元同居人の事です。元同居人の行く末を案じているのではなく、自分が身元引受人になっていることです。誰かに相談出来る状況では無かったし、自分が法の裁きを受ける訳でもないし、自分で何とか出来ることは自分で解決して行こうと思っていました。いざ引き受けたは良いけれど、そもそも身元引受人とは？ どんな責任があるのか等々、身近な非日常の出来事に不安は募る一方で。

弁護士の先生は言いました。「相談しても良い内容なのかと悩まず、まずは相談して下さい」と。話がこじれてから相談に来るケースが多いとの事。薬物だけでなく、仕事の問題、お金、パートナーの事、HIV等、弁護士の先生への相談のタイミングは一人で抱え込まず、困った事があればそれがタイミングだそうです。確かに。話がこじれる前に相談に行っておけば…と思いました。弁護士の先生のお話を聞いて賢くなったのと、話す勇気をもらいました。

トークサロン

「障害者枠で働く陽性者の交流会」

境遇や立場がより近い陽性者同士で集まって、日ごろ疑問に思っていることや経験を共有することができるトークサロン。「障害者枠で働く陽性者の交流会」が1月25日にプレ開催されました。参加した8名のなかから、3名の感想文をお届けします。

「障害者枠で働く～他の会社ってどんな感じ？～」よしぽん
(感染告知年：1999年/性別：男/年代：50歳代)

私は現在障害者として特例子会社で働いています。今回、このような交流会が開催されるということを知り、自分の勤めている会社と比べて他の会社はどんな感じなんだろうかと興味を持ち、参加することにしました。ここ数年障害者枠で就職する陽性者が増えてきたと聞いていましたが、実際どうなんだろう、参加者少ないんだろうと思っていたら、意外に多く参加されていました。

特例子会社で働く人、一般の会社の障害者専門の部門で働く人、部署に一人だけ障害者で配属された人、もともと働いていた会社で後から告知をし、障害者として働くことになった人など、障害者として働くといっても様々な形があるのだなあと思いました。

障害者枠で働くことのメリット、デメリットも人それぞれでした。会社によって違うのですが、メリットとしては、HIVに感染していることを会社に隠さずに済む、病気のことを理解してもらえた、平日に通院しやすい(配慮がある)、会社でも普通に服薬ができる(隠す必要がない)、同じ陽性者がいるのでいろいろ話ができる、残業が少ないので体調面で楽になった。自由な時間がとれるようになったなどでした。

デメリットは、健常者と同じ仕事をしているのに給与が低い、部署に障害者は一人だけなので相談できる人がいない・同僚にどう思われているか不安(障害者ということは話していないもしくは障害の内容を話していない)、雇用形態が不安定(契約社員など)などでした。

おなじ障害者枠で雇用されていても会社によって扱いは様々で、自分の勤めている会社は中でもいい方なのだと感じました。今回はプレ開催でしたが、ぜひ定期的に開催してほしいと思います。そして、これから障害者枠で就職を考えている人にも参考になればと思います。

「障害者枠での転職」 熟年ペン太

昨年9月に転職し、新しい職場で働いています。障害者枠で働くことは初めての経験です。病歴は、感染を知って間もなく AIDS 発症、1か月の入院、そして投薬開始。それから5年余りの年月が過ぎて、薬も飲み忘れなく、体調は安定した日々が続いています。でも、薬を毎日飲み続けなければ健康を維持できないこと、でも、規則的な生活を心がけていれば、日々の生活に支障がなく、仕事もこなせることを、誰かに話したい、理解してもらいたい気持ち、いつも心のどこかにあったこと等が転職の理由だったと思います。

そして転職…ところが、入社して1か月過ぎるぐらいから、職場の雰囲気はどうもなじめないことを感じるようになりました。時が過ぎれば、この新しい環境に慣れるものか、それとも障害者枠採用という事情からうまく周囲とコミュニケーションが取れないのだろうか、精神的にも落ち込み色々悩んでいました。

そんな折、今回の障害者雇用の枠で働く仲間のミーティングがありました。皆さんそれぞれ、今に至るまでの経緯や、これから進んでいく方向性も違うものだなあ参考になりましたし、同時に HIV 陽性という共通の課題があって、そこから見えてくる就労に対する考え方、ワークライフバランスなどなど、自分一人では考え及ばなかった視点も得ることができました。薬の開発・進歩により、陽性者も長い人生を歩んでいけます。働くこと

と病気とのつきあい方を考える今回のような機会を今後
も期待します。

「HIV陽性者として働くということ～苦悩・葛藤・孤独の なかで～」 TRUTH

(感染告知2007年／服薬歴8年／初参加／ゲイ／30代)

医療の発展のおかげで今では良い薬が開発され、HIV＝
死ではなくなったと言われて久しい感がある。HIV陽性
者であるという事実はその人の人生の中で、依然小さなこ
とではないにせよ、すべてを覆ってしまうものではすで
になくなった。人生の一部のこととしてとらえられるよ
うになった。しかし仕事となるとこれは陽性者だろうが、
そうでなかろうがおしなべて広く一般的に人生の大きな
部分を占めるものであることに依然変わりはない。ゆえ
に HIV を抱えながら働くということは、必然的に大きな
関心事になるとともに、心配事の一つであることは、陽
性者のだれもが抱える心情である。それぞれの陽性者が
それぞれの思いを抱えて仕事をしている。それは陽性で
あることを隠しながら健常者として働く者、もしくは初
めから障害者として働いている者共通である。今回障害
者として働いている人たちが集まることでそれぞれの思
いや経験をシェアすることができた。

障害者枠を利用し、特例子会社に就職されて働いて
いる方々が結構いらしかった。何度か転職を繰り返し、
今のところに落ち着いている方もいらしゃれば、今後
も流動的に、積極的により良い条件を探していくという
方もいらしかった。それぞれの立場から様々な状況が
あり、共通していることは労働条件や環境は会社によ
って異なるということ。入ってみないとわからないことが
多く外から見ていただけでは内情は決してわからないとい
うこと。またどこまで自分が妥協するのか、労働条件や待遇
など自分の中で決めることも多いということだった。

たとえどのような状況下にいようと、各人がその人
なりのストーリーを紡いでいくしかない。その人なりの
経験を積み上げていくしかない。自分で自分の人生を切
り開いていくしかない。こんな当たり前のことを再認識
した気がした。

同じ条件でも人によって感じ方が違い、最終的に「働き
方＝生き方」を決めるのは自分である。障害者だろうが、
健常者だろうが働くということは生きていくということ
である。様々な制約や葛藤は人である以上 HIV に関係な
く必然なのだということをあらためて自覚した。HIV陽性
者であることが確かにそうでない人に比べて多少なりと
も自己の人生の決定に影響を与えることがあるかもしれ
ない。今の健康状態に他人よりも不安を覚えることもあ
るかもしれない。しかし程度の差こそあれ、それは万人
に共通した事であり、HIVに限ったことではないというこ
とを強く思った。

以上のような再認識ができたことは非常に大きな収穫
であるとともに、明日からの生き方にも影響するであろ
う。ゆえに今回のような情報共有の機会というのは、非
常に意義深いことであると同時に、こういった機会を提
供して下さった生島さんをはじめネスト・プログラムの
の方々に深謝したい。自分も今後少しでも利用する側か
ら、支えていく側に回っていけたらと考える次第である。
生島さん本当にありがとうございました。

Women's Salon

女性陽性者のためのプログラム Women's Salon は、
2014年度から予約不要となり、フリートークや情報交換・
交流のプログラムとなりました。1月29日はフリートー
クとなって初めての平日夜開催。参加者6名から2名の感
想をお届けします。

「オンナの連帯感」

まあこ

(2004年感染判明／服薬歴約2年／3,4回参加／女性／30代)

1月29日の Women's Salon で、日本で、女性の
HIV陽性者ってどのくらいいるんだろう？という話題が
出ました。ネットで調べたところによると、平成26年9
月で約3000人だそうです。それが少ないのか多いのか？
私にはわかりませんが、ぶれいすのような陽性者支援団体
のミーティングなどに出てきてるような人はほんの一部な
のでしょうか。

じゃあ、誰とも繋がらないで、辛い想いをしている人が
いるんじゃないのか？ その日ミーティングに参加して
いた女性たちはそういうことを心配していました。HIVに
感染したこと。それを平常心で受け入れられる人ってき
つとあんまりいないはずで、ミーティングに出ている今はそ
れを受け入れている女性たちも、辛い想いをして、誰かの
支えがあって、それを乗り越えてきたんだと思います。

その日のミーティングは、もう何回か顔を合わせている
メンバーだったので、病気のことよりもお互いの近況や、
笑えるような悩み相談や、生活のお役立ち情報などなど。
とてもアットホームで、和気あいあい。「HIV」という、な
かなか社会に言えない最大の秘密を共有している連帯感か
らか、レギュラーで来ている人も、久しぶりに会った人も
初めてさんも、病気のことはもちろん、何でも話せて、な
んともいえない安心感を感じる人も多いようです。

だから、こういう会に来てみたいけど、勇気がなくて。。
という方も、新しい喫茶店に入ってみるくらいの気軽な気
持ちで(笑)、参加してくれたら嬉しいな。みんなこの病
気と向き合って、辛さや人の痛みを知る、精神的に成熟し
ている大人で、かつ女子力も高いお姉さん達がいっぱいで、
色々勉強になるので、楽しいよ！

私はこの病気を通じて、でも病気関係なく、一生付き
合っていけそうな仲間がたくさん出会えました >^_^<

「話題のジャンルが豊富でした」

なお

(2009年告知／約2年服薬／4回目参加／女性／40代)

Women's Salon がフリートークになってから2回目の
参加です。しばらく都合があわなくて、2年ぶり位に参加
しました。参加人数が6名でにぎやかにさまざまな話をし
ました。最初は自己紹介をして、グラウンドルールを読み
合わせしてから、スタートです。

たまたま、海外旅行を控えている方がいらして、その
話題を中心にいろんな話になりました。海外旅行の話、携
帯電話の海外使用、海外の医療状況、頭髪問題、仕事の話、
友人の話、恋愛の話、病院の先生の話、薬の話などなど、
まるで関係ない話から、関係ある話まで、約2時間絶え間
なくおしゃべりを楽しみました。

お茶を飲み、お菓子を食べ、にきびをつぶしたり、白髪

を抜いたりしながら、笑ったり、お話ししたりの、ゆったりした雰囲気でした。このような楽しい時間を共有できるのは、きっと首都圏に住んでいるからだという事になり、日本に一体何人の女性陽性者がいるのかと疑問がでました。会の最中にファシリテーターの方が調べてくださって、約3000人とのことでした。「それくらいの人数ならいつかきっと集まれるっ!」「場所を探そう」などと未来への妄想までに発展しました。

やはり、この機会に参加することで、かなり力をもらえると感じるのですが、みんなの共通項としてあるので、他の地方でさびしくしてらっしゃる方なども集まれる機会があるといいなという話になりました。相当大きな話になったりしましたが、次の Women's Salon も元気に集まれるといいなと思いました。

第22回 カップル交流会 「新年カップル交流会」

2015年の新年カップル交流会は、幹事さんカップルを含めて、(+/-) (+/+) のカップル8組と生島あわせて17名が参加しました。参加者4名(組)の感想文をお届けします。

「ルールで安心できた」

たいがぁ

(30代♂-) パートナー(40代♂+) 初参加

私たちは「パートナーの病気の事」「ゲイである事」を隠して生活しています。私自身ぷれいす東京のプログラムへの参加は初めてで、会場に行くときちょっと緊張。でもみんな優しく気を配ってくれる方達で、街のコミュニティーのようにいろんな方達とお話しできる場所でした。今回はお食事交流会。でもいきなり食事会ではなく多目的ルームでまずは自己紹介と、簡単なお題からのアピールタイム。そのおかげで食事会に移っても同席するカップルの方と会話が弾みます。

私が一番感心した事は、事前に参加者の個人情報の扱いについてきちんとルール説明をされた事。このおかげで終始安心して皆さんとお話しする事ができました。参加してみても、様々なタイプのカップルがいるんだなぁと改めて感じました。日頃話ができないようなカップルの方ともお話しできましたし、悩みを持つと気持ちが閉鎖的になりがちですが、いろんな境遇の方とお話するのは気持ちを豊かにしてくれました。幹事のお2人、ぷれいす東京を支えている皆さん、そして今回参加カップルの皆さんに感謝!

「ホテルビュッフェも素敵だけど、貴重な場をありがとう」

リユウ

(陽性者/新年は2回目/ゲイ/50代/パートナーは「-♀」)

久々の参加。まずは顔合わせ「多目的室」へ。新たに会うカップルが多い。

見知った顔が少なく、あの人達どうしたんだろ? ここが互いの状況確認の場だった(?)のに…。

そうこうしているうちに、顔合わせ会が進む。「なれそめ」紹介では、ウチは30余年前の事で、互いの思い違いも露呈する羽目に(苦笑)。カップル片方だけでなく双方の話が聞かれ、新鮮だった。

その後、ホテルビュッフェへ〜ワクワク!

初参加の男女カップルと同席。失礼かもしれないが、随

分前の自分達を見ている様で、何だか放っておけない感じ。イトヨリのポアレやローストビーフを忙しく頬張りつつ話したが、もっと時間を取りたかったな。

席替はあったが、どうしても全員とお話できないのが辛い所。ホテルのカフェ(以前やった)とかカラオケとか、流れて二次会企画できるといいかも(なんて勝手?)。

今回は8組のカップル。ゲイもヘテロも第1回からの古参も初参加者も、いろいろあるけど、二人共の都合を付け、集い笑って話して食べて帰って行く。一年で何回かそうして自分達の何かを確認できる場があるのはとてもありがたい素晴らしいこと。是非また参加したいです。ありがとうございました。

「初めての先輩夫婦との出会い」

だいすけ

(30代+/+♂) 妻(20代-/♀) 初参加

私たち夫婦には HIV に関して自由に気兼ねなく話せる場がありませんでした。私にとっては、特にそれで不自由することもなく、日々を過ごしていましたが、妻には違っていただいようで不安な思いを消化できず、一杯いっぱいになってしまっていたようです。

そんな状況を解決する糸口として、スタッフの方々の勧めもあり、今回参加させて頂きました。

主に2組のご夫婦(新婚さんと熟年ご夫婦)と交流させて頂き、私以上にパワフルで健康的な陽性者の方と直で話せたことが、妻にとって HIV がどんな病気なのか病識を深めるいい機会になったのと、先輩夫婦の方々に病気のことも含め夫婦生活を無理なく維持する秘訣等のアドバイスも受けることができ、夫婦ともども普段したくてもなかなかできなかった貴重な経験をさせて頂きました。

夫婦間の心の風通しをよくするためにも、今後も定期的に参加させて頂きます(笑)。

参加されたカップル及びスタッフの皆様ありがとうございました。

「歓談に時を過ごす」

太郎

(ゲイ・陰性パートナー・40代)

パートナー(男性・+)の誘いで、新年カップル交流会に初参加させて頂きました。交流会そのものに初めての参加でしたので、正直、どのような方々が来られるのか想像もつかず、少々緊張しながら、待ち合わせ場所のルームへ足を運びました。

今回は8組、16名の方々が参加。うち、1組2名の方々が幹事でした。

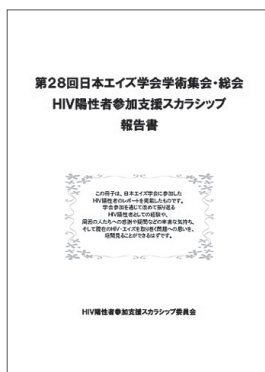
ぷれいす東京のミーティングルームの一室で、まずは今回の参加者の方々とご対面。ゲイ同士やご夫婦等、本当にさまざまなカップルの方々がいらっしゃいました。室内でカップルごとの自己紹介、馴れ初めなどを話し、雰囲気もとても和やかな感じで、私の緊張も徐々にほぐれていきました。

食事会が開催されるホテルに移動。バイキング形式で美味しい料理をいただきながら、それぞれのカップル同士が、参加している他のカップルの方々と歓談。始終、和やかな雰囲気時間が過ぎ、途中、席替えなどもあり、私もさまざまな方々とお話しすることができました。勉強になる、ためになるお話しも沢山聞くことができ、有意義で楽しい時間を過ごすことができました。今回参加させて頂いた、本当に良かったというのが正直な感想です。

「HIV陽性者参加支援スカラシップ」報告会

ぶれいす東京が、はばたき福祉事業団と日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラスとの協働で実施した「第28回日本エイズ学会学術集会・総会HIV陽性者参加支援スカラシップ」の報告会が、2月15日に新宿区立新宿文化センターにて開催されました。

2006年の第20回日本エイズ学会学術集会・総会(学会長:池上千寿子)の開催時に、「HIV陽性当事者にも開かれた学会を」という発案のもと始まった本プログラムも今回で9回目。2008年度より恒例になっているプログラムの実施報告会が先日開催され、スカラシップを利用して学会に参加した36名のHIV陽性者のうち2名が、スピーカーとしてそれぞれの経験を語りました。



スカラシップ参加者のレポートを収録した報告書は読み応え抜群!

「回を重ねるごとに学会への自分らしい参加の仕方をつかんできた」、「参加するだけで満足せず社会に還元したい」といった頼もしい言葉とともに、当事者による学会参加機会促進の取り組みが継続されることの重要性が示されました。

今年度も寄付や助成をいただいた企業・団体をはじめ、プログラムの運営にご協力いただいた方々に感謝するとともに、今後も変わらぬご支援をお願い申し上げます。本プログラムのこれまでの実績など詳細については、スカラシップ委員会のWebページをご覧ください。学会参加者のレポートをまとめた報告書のPDF版も公開中です。

<http://www.ptokyo.org/scholarship/>

(報告:大槻)

部門報告 (2015年1~3月)



ホットライン

HIV/エイズ電話相談(ぶれいす東京および東京都委託)

相談実績報告

—ぶれいす東京HIV/エイズ電話相談—

	1月	2月	3月
日数(日)	4	4	5
総時間(時間)	16	16	20
相談員数(延べ人)	4.5	5.5	6.0
相談件数(件)	45	32	43
うち(男性)	41	30	39
(女性)	4	2	3
(その他)	0	0	1
陽性者相談	0	1	0
要確認相談	0	0	0
1日平均(件)	11.3	8.0	8.6

—東京都HIV/エイズ電話相談(夜間・休日)—[委託]

	1月	2月	3月
日数(日)	12	12	13
総時間(時間)	36	36	39
相談員数(延べ人)	25.5	29.5	32.0
相談件数(件)	204	174	189
うち(男性)	168	147	139
(女性)	35	26	49
(その他)	1	1	1
陽性者相談	0	1	6
要確認相談	1	1	0
1日平均(件)	17.0	14.5	14.5

ホットライン部門・活動状況 ()内は出席人数

スタッフミーティング

1/18(8名) 2/15(10名) 3/15(12名)

世話人会

1/18(5名) 2/15(5名) 3/15(5名)

東京都電話相談連絡会

1/16(3名) 2/13(3名) 3/13(1名)

東京都の件数は2月・3月は低調だった。ぶれいす東京は、若干件数が戻った感じであった。新人は6人が研修を修了し、即戦力として活動している。

(報告:佐藤)



バディ

陽性者のための直接ケア・派遣プログラム

バディ担当者ミーティング(1-3月実績)

1/3 : 3名 1/15 : 4名

2/5 : 中止 2/19 : 7名

3/7 : 4名 3/19 : 4名

※ 個別ミーティング 6件

利用者数

11カ所の医療機関に通院中の18名の方に27名のバディスタッフを派遣

活動内容(2015年3月末現在)

派遣継続中	18件
在宅訪問	16件
病室訪問	2件
派遣休止	5件

1月~3月中の動き

・新規派遣・相談	2件
・派遣休止	0件
・派遣調整	16件

今後のミーティング日程

午前ミーティング:

偶数月第1木曜 11:00/奇数月第1土曜 11:00

6/4(木) 7/4(土) 8/6(木)

※木曜は参加者がある場合のみ開催。事前にご連絡下さい。

午後ミーティング: 毎月 第3木曜 19:00

6/18(木) 7/16(木) 8/20(木)

バディの現場から

車椅子利用者のリハビリの付き添いだった活動が、クライアントの日常動作能力の低下に伴い、活動内容が変更になったケース、体調変化等により在宅から病院での支援になったケースなど、ケースの変化に伴い、バディも関わり方や支援を検討する機会が多かったように思います。そうした変化の中で、地域の在宅支援に関わる支援者のケースカンファレンスに参加することもありました。今後も、クライアントの変化にできるだけ対応しつつ、クライアントの生活を応援できるような活動ができればと思います。(報告: 牧原)



ネスト

陽性者とパートナー・家族のためのプログラム

ネスト・プログラム参加状況(2015年1-3月)

グループ・ミーティング

・新陽性者ピア・グループ・ミーティング(PGM)第78期(参加者7名)

2/14 2/28 3/14 3/28(修了)

・ミドル・ミーティング

1/10(26名) 2/14(24名) 3/14(23名)

・異性愛者のための交流ミーティング

1/24(12名、ピア・ファシリテーター2名)

2/20(14名、2名) 3/28(8名、1名)

・Women's Salon 1/29(6名)

・陰性パートナー・ミーティング 2/7(8名)

・もめんの会(HIV/AIDSを支える母親の会) 3/11(3名)

・新年カップル交流会 1/4(8組16名、内幹事1組2名)

学習会/ワークショップ

・シリーズ「専門家と話そう」第14回「弁護士と話そうⅢ」

ゲスト 永野靖さん 山下敏雅さん

(永野・山下法律事務所/LGBT支援法律家ネットワーク)

1/30(30名)

・アサーティブ・コミュニケーション 自己表現のABC 第5期 2/28(12名) 3/1(10名)

・ベーシック講座「HIVってどんな病気？」 1/17(1名)

トークサロン

・就職活動を報告しあう会

1/21(7名) 2/21(8名) 3/18(3名)

・介護職として働く陽性者のミーティング 2/16(8名)

・看護師として働く陽性者のミーティング

1/17(7名) 3/7(8名)

・障害者枠で働く陽性者の交流会(プレ開催) 1/25(8名)

・教師として働く陽性者のミーティング(プレ開催)

3/27(5名)

ミーティング(陽性者メンバー、ぶれいす東京スタッフほか)

・新陽性者PGMファシリテーター・ミーティング

第77期振り返り 1/7(3名、5名)

・web NEST運営委員会 2/9(2名、2名)

ピア・ファシリテーターによるプログラム等(厚生労働省委託事業)

・U40(アンダー・フォーティ)ミーティング

～10代から30代の男性HIV陽性者のミーティング～

1/10(参加者4名、ピア・ファシリテーター1名)

2/25(8名、2名) 3/20(14名、2名)

・セクレタリー (15回 15名)

・ピア・ファシリテーター (6回 10名)

NEST NEWS LETTER

1/5:1月号発行 2/5:2月号発行 3/5:3月号発行

※前号(紙版)の部門報告で、年末パーティーが抜けていたもので追加報告いたします。参加者55名(スタッフを含め60名)と大盛況でした。web NESTに参加者の感想文が掲載されているのでぜひご覧ください。

・年末パーティー 12/20(55名)

(報告: 佐藤、加藤、はらだ)



Gay Friends for AIDS

ゲイによるゲイ・コミュニティ向け活動 <http://gf.ptokyo.org/>

Gay Friends for AIDS 電話相談

1月 5件 (1日平均1.0件)

2月 5件 (1日平均1.25件)

3月 9件 (1日平均2.25件)

聴覚障がい者向けのメール相談対応

1月:0件 2月:0件 3月:0件

「QOGL」動画で公開

3/1に、「QOGL」の収録作業を行いました。今後はYouTubeチャンネルで公開していきます。動画でのシリーズコンテンツの制作は初めての試みですが、試行錯誤しながらもより良いものを継続してリリースできたらと思っています。詳しくは4ページをご覧ください。

(報告: sakura)



HIV陽性者への相談サービス

相談実績2015年1～3月

	1月	2月	3月
電話による相談	87	108	150
対面による相談	53	74	70
E-mailによる相談等	109	104	155
うち新規相談	26	18	34

※メール新規は含まず

1～3月の新規相談者の属性(N=78)

陽性者: 50人(男性: 46 女性: 4)

パートナー: 8人(男性: 6 女性: 2)

家族: 6人(男性: 3 女性: 3)

専門家: 9人(男性: 7 女性: 2)

判定保留: 3人(男性: 2 女性: 1)

その他: 2人(男性: 2 女性: 0)

1～3月新規相談者の情報源(N=78)

WEB(PC/携帯サイト含) : 35件

人的ネットワーク(家族、友人、パートナー他) : 11件

医療関係(Dr.、Ns.、MSW、クリニックなど) : 8件

以前から知っていた : 8件

冊子/パンフレット/NL : 4件

他の陽性者 : 2件

カウンセラー : 1件

行政 : 1件

保健所/検査所 : 1件

障害者職業センターのセミナー : 1件

電話相談 : 1件

不明 : 5件

1～3月新規相談の内容(複数回答あり)

【ぶれいす東京のサービス利用、積極的参加等】〔関東〕

・利用登録×12(U-40×3、ミドル×2、異性愛×1、カップル交流会×1、PGM×2、看護師×1、もめんの会×1、利用登録のみ×1)

・ボランティア活動など何か貢献したい×2

【検査や告知に関する相談】〔関東、九州/沖縄〕

- ・告知直後、保健所で判明、判明時の医師の対応
- ・(判定保留)病院で検査、確認結果を聞きにいけない
- ・(判定保留)アメルバ赤痢治療中、自主的にクリニックで迅速検査し確認検査待ち

【告知直後の漠然とした不安】〔関東、東海、九州/沖縄〕

- ・体調面の不安 ×2
- ・健康保険や手帳取得でのプライバシー不安×2
- ・地方での医療機関の選択、通院時のプライバシー不安×2
- ・告知直後の混乱
- ・医療への不信、自然療法について

【対人関係に関する相談】〔関東〕

- ・自分が感染したと思われる相手への検査推奨
- ・通知せずにsexした相手に後から伝えて脅迫されている
- ・未通知でリスクの有るsexをした相手への通知
- ・通知後のパートナーの混乱
- ・入院による職場/家族/学校への通知や説明

【生活に関する相談】〔関東、九州/沖縄〕

- ・生命保険の加入×2
- ・医療系の学生、就学の継続

【就労に関する相談】〔関東、甲信越/北陸、中国/四国〕

- ・外国人、健康保険利用でのプライバシー不安×2
- ・今後の就職活動、障害枠での就労 ×2
- ・職場の健康診断でのプライバシー不安
- ・職場への通知、法律で必要だとされている
- ・療育手帳あり、今後の就労について
- ・福祉関係で転職活動中、履歴書の健康状態の書き方
- ・トキソプラズマの後遺症あり、今後の職場復帰

【医療体制や受診に関する相談】〔関東〕

- ・地方から転居し通院中断、東京近郊の医療機関の情報
- ・通院可能な耳鼻科の情報
- ・今の病院での治療継続の不安、他の医療機関の情報

【病気や病態の変化、服薬】〔関東、中国/四国〕

- ・バイアグラの服用、先走りのウイルス量
- ・ウイルス量やCD4の変動について
- ・CD4値が低い状態が続き自信がもてない

【心理や精神に関する問題】〔関東、九州/沖縄〕

- ・人間関係の閉塞感、話せる場所がない×4
- ・精神的に引きこもり気味
- ・大量服薬、鬱もあり生きて行くのが面倒
- ・病気の受け止め方
- ・過去の虐待やトラウマ

【周囲の人からの相談】〔北海道/東北、関東、東海、近畿、海外〕

<パートナー/配偶者>

- ・(パートナー)告知直後の混乱、今後の支援について×2
- ・(パートナー)パートナーの浮気
- ・(パートナー)遠距離での相手の支援、子づくりや結婚
- ・(パートナー)今後のセイファースックス、相手の薬物依存
- ・(パートナー)うつ傾向のあるパートナーの支援
- ・(配偶者)夫が脳症で判明、脳症の後遺症、今後の支援
- ・(配偶者)子づくりと相手とのすれ違い、話せる場所がない

<家族(親、きょうだい)/親戚>

- ・(きょうだい)告知直後、家族への感染や今後の医療費
- ・(きょうだい)帰省中の兄弟の服薬に気付きネットで調べて混乱
- ・(きょうだい)自分が結婚予定、陽性のきょうだいとも同居する配偶者への通知
- ・(きょうだい)きょうだいが発症で判明、転院や今後の支援
- ・(母親)子供の今後の就労

<その他>

- ・(友人)同級生の兄弟が発症、どう対応したらいいか
- ・(友人)視覚障害者向けの資料希望
- ・(その他)海外で8週たった抗体検査が陰性で、PCRが陽性、どうということか?

<専門家>

- ・(行政)クライアントの対応、情報共有×2
- ・(MSW/介護事業所)パディ派遣の問い合わせ×2
- ・(MSW)海外渡航の情報
- ・(MSW)自然妊娠した陰性パートナー向けの資料や冊子
- ・(企業)障害枠で採用経験あり、今後の採用にあたっての相談
- ・(医療機関)保健所等での検査の結果通知の仕方について
- ・(福祉施設)研修の打ち合わせ、意見交換

(報告: 牧原/生島/福原)



研究・研修部門

研究事業

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「地域においてHIV陽性者等のメンタルヘルスを支援する研究」

(研究代表者: 樽井正義)

- ・1月9日: 肥田分担研究会議を開催(於アバリ・クリニック)。参加者3名。
- ・2月14日: 厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業研究成果発表会にて発表。
- ・3月15日: Futures Japanとの合同報告会「HIV陽性者の健康・就労・スティグマ・セックス・薬物使用の現状と課題を考える」を開催。参加者46名。詳しくはP.2参照。
- ・3月15日: 班会議を開催(於角筈地域センター)。参加者6名。
- ・3月31日: 研究成果物としてパンフレット「身近な人から薬物使用について相談されたら」を発行、「地域におけるHIV陽性者等支援のためのウェブサイト」(<http://www.chiiki-shien.jp/>)にて公開。詳しくはP.4参照。

本研究班は3か年の研究計画を終了し、平成26年度総括・分担研究報告書および総合研究報告書の作成、その他調査結果をまとめた投稿論文(和文、英文)の執筆を行っています。

研修事業

職場研修(東京障害者職業センター「雇用管理サポート」事業など)

- ・1月14日: 世田谷区障害者雇用支援セミナー「90分で分かる! 障害者の採用と職場定着」にて講演。参加者62名
- ・1月20日: 東京障害者職業センター雇用管理サポート講習会「免疫機能障害の基礎知識と雇用管理」にて講演。参加者18名。
- ・1月28日: 沖縄障害者職業センターにて講演。参加者3名。
- ・2月25日~26日: 情報通信企業にて講演。参加者38名。

受託研修協力

- ・2月28日~3月1日: 青年海外協力隊エイズ対策技術補完研修(シェア=国際保健協力市民の会主催)に運営協力。参加者10名。

その他の講師派遣・研修

- ・1月13日: 東京YMCA国際ホテル専門学校にて講義。参加者19名。
- ・1月17日・31日: 「HIV/AIDS支援に関するサポーター養成講座 in はままつ」にて講演。参加者12名。
- ・1月19日: 神奈川県職員研修にて講演。参加者15名。
- ・2月23日: 板橋区保健所にて講演。参加者16名。
- ・3月5日: JICA九州「HIV/エイズ予防及び対策研修」にて講演。参加者8名。
- ・3月15日: 新潟陽性者ピアミーティング「らっくら」に運営協力。参加者11名。
- ・3月25日: 映画『トークバック 沈黙を破る女たち』Living Together朗読ワークショップにて講演。参加者18名。

(報告: 生島・牧原・大槻)



特定非営利活動法人 ぷれいす東京 2014年度活動報告会のご案内

恒例の活動報告会を今年も開催します。部門報告では、リレー方式で多様なスタッフが各部門から登場し、日頃の活動の様子、活動しての思いを語ります。お楽しみに！

■ 日時

2015 年 5 月 24 日 (日)

14:20～17:00 (開場 14:00～)

- ・どなたでも参加できます。
- ・ぷれいす東京のスタッフ、賛助会員、寄付者、利用登録者は無料。それ以外の方は、資料代として1,000円いただきます。当日、ぷれいす東京の2014年度年間活動報告書をお渡しします。

■ プログラム

前半：部門報告

後半：トークコーナー

「ゲイ男性と貧困、そしてHIV感染」

～当事者の経験から専門家とともに考える～

ゲスト

- ・HIROさん (HIV陽性者、ゲイ、元路上生活者)

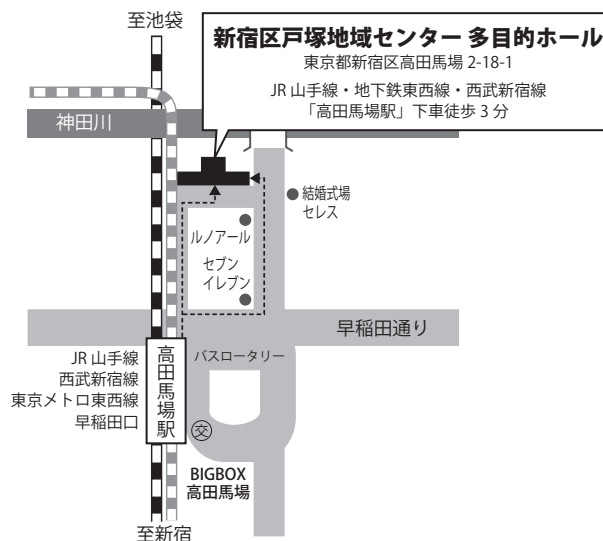
コメンテーター

- ・濱中洋平さん (クライシスサポートセンター nolb)
- ・山下敏雅さん (弁護士/LGBT支援法律家ネットワーク)

■ 懇親会

活動報告会終了後に会費制の懇親会を予定しています。お酒を飲む人も飲まない人も、ネットワークを広げませんか？活動報告会の前半までにお申し込みいただければ、参加できます。

■ 会場



■ 当日の問い合わせ先

ぷれいす東京 携帯電話：080-5387-8341 (当日13:00～)

ぷれいす東京 2014年度 総会について
5月24日 (日) 13:15～13:50

会場 新宿区戸塚地域センター 多目的ホール

※総会の議決に参加できるのは正会員のみとなります。

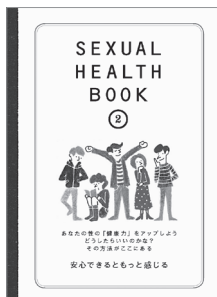
連続学習会「ぷれいすトーク」がスタート！

テーマごとに講師を招いてトーク&交流をセットにした連続学習会「ぷれいすトーク」が始まります。HIV/エイズについて情報を増やし、話せる場を作り出します。

これまで機会がなかった方も、ぜひ気楽に参加してみてください。

第1回 ぷれいすトーク「家庭のなかの性教育 (予定)」

家庭のなかで子供と性を語るのは、なかなか難しいものです。そこで、ぷれいす東京が発行する、SEXUAL HEALTH BOOK 2をつかって、家庭のなかで、子供達と性感染症や避妊などについて、考えたり、話したりするアイデアを一緒に出し合ひましょう。



- ・日 時：6月27日 (土) 14:00～16:00 (開場 13:30)
 - ・会 場：新宿区戸塚地域センター 5階会議室2
 - ・講 師：池上千寿子、ほか
 - ・申込先：E-mail: office@ptokyo.org
件名に「第1回 ぷれいすトーク参加希望」と明記してお申し込みください。
 - ・定 員：30名
 - ・資料代：1000円
- ※どなたでも参加できます。(ぷれいす東京のスタッフ、賛助会員、寄付者、利用登録者は無料。)

編集後記

- ・Let It Be (こんどう)
- ・ぷれいす東京 20周年を記念した昨年度のNewsletter(81～84号)の巻頭がなかなかの充実ぶりだ。また、82号掲載の「20年記念シンポジウム」のまとめもおすすめです。日本や世界のエイズの歴史がここに語られている。(いくし)
- ・諸事情から節約モードのギアを一段上げ、光熱費や通信費を見直したり、自炊を多くしたりしています。その結果、今まで作ってこなかったような料理も気軽に作れるようになって、レパートリーが増えたので、かえては食は豊かになったかも！意外な発見にちょっと喜んでいきます。(やじま)

編集・発行：特定非営利活動法人 ぷれいす東京

〒169-0075 東京都 新宿区 高田馬場 4-11-5 三幸ハイツ 403
TEL: 03-3361-8964 (月～土 12～19時 ※祝祭日を除く)
FAX: 03-3361-8835
E-mail: office@ptokyo.org

ぷれいす東京: <http://www.ptokyo.org/>
Gay Friends for AIDS: <http://gf.ptokyo.org/>
web NEST: <http://web-nest.ptokyo.org/>
Twitter @placetokyo (<http://twitter.com/placetokyo>)
Facebook: <http://www.facebook.com/PLACETOKYO>